

教師の経営力・指導力・組織力の向上を図る宗像市教育委員会の方策

宗像市学力向上総合プロジェクト

1 プロジェクトの目的

子どもたちの学力向上について、成果指標をもとに具体的な成果と課題を明確にしながら見える学力を中心にその向上を図っていくために本プロジェクトを展開する。特に、以下の学力調査において、全国平均比5ポイント以上アップを目指す！

校種	調査対象		調査教科	
	小学校	中学校	小学校	中学校
全国学力・学習状況調査	第6学年	第3学年	国語・算数	国語・数学
福岡県学力実態調査	第6学年	第3学年	社会・理科	社会・理科・英語
宗像市統一学力テスト	第5・6学年	第1～3学年	国語・社会 ・算数・理科	国語・社会・数学 ・理科・英語
	第1～4学年		国語・算数	

↓ 宗像市独自の全校統一学力テスト・児童生徒の学習意識調査の実施

ア 宗像市立小・中学校全校統一学力テスト

当市教育委員会が市立小・中学校における児童・生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

各学校が、各児童・生徒の学力や学習状況を把握し、児童・生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

イ 宗像市立小・中学校児童生徒の学習意識調査

当市教育委員会が市立小・中学校における児童・生徒の学習意識を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、今後の教育施策に反映させる。

2 プロジェクトの各内容と方法

○授業の質的改善

(1) 学力向上のための授業のツボ！提案プロジェクト

趣旨

小中一貫教育を推進している中学校区には、すでに学力を向上させる独自の組織、独自の問題解決的な学習過程、生徒指導の機能を生かした学習のしくみ、単元系統図、学び方一貫表、学習の手引き等が充実してきており、それそのものが学力向上の大きな方策となっている。また、県教委からの学力向上推進事業なども積極的に取り入れながら学力向上に努力している。このような状況を踏まえ、宗像市教育委員会では、学校訪問等で具体的な授業場面をみながら改善のポイント（いわゆるツボ！）を明示し、学力向上につながる授業の質的改善に全校がつなげていただくよう授業のツボ！提案プロジェクトを立ち上げる！

～問題解決的な学習過程や反復、説明的な学習過程を生かせる授業のツボ！～

授業を変えるツボ1 達成型めあての導入！

自分でできたことを実感させることにつながる「めあて」にして変える！

- * 「～ができるようになろう」等の文末にしてみる！
- * 「～を工夫して説明しよう」「～理由書を書こう」などの言語活動を促進する目標にしてみる！

授業を変えるツボ2

リズム、テンポ、スピード感のある基礎力定着学習を工夫して変える！

授業を変えるツボ3

自分の考えを書いて説明、話して説明、図にして説明の活動を積み重ねて変える！

授業を変えるツボ4

算数の文章問題は、精選されたものに文や数値を付加して複雑化してみる。

問題文の解き方の定石

① 求答事項の確認⇒②分かっていることの確認⇒③条件の確認で行う。

* ①、②がひっくり返っていることが多い。要改善！

* 5年生からは、問題提示のあと、すぐに解決の説明づくりに入り、そこから課題を探りめあて化していく鍛えが中学校につながるツボ！

授業を変えるツボ5

教科書資料の読み取りとそれを問題化して解かせる授業で変える！

授業を変えるツボ6

対立から合意形成を図る話し合い活動で変える！

違う意見が堂々と出され、検討しあって生み出す喜びを味わう！

自分○！ 相手も○！の世界を体感する！

授業を変えるツボ7

理科や社会、算数の問題文を繰り返し音読する活動で変える！

授業を変えるツボ8

ビジュアル、クリア、シンプル、シェアの手法で変える！

上記1～8の方途提案は10月内に行う。場は、第2～3回校長研修会、第2～3回教頭研修会で説明、情報提供とする。

活用方法としては、日常及び教室訪問時の管理職からの指導参考資料として、校内研修会での情報提供などの方法がある。

2学期11月以降の予定：校長研修会、教頭研修会で情報提供する内容

A 多読・速読力をつける研究

- (1) 音読、群読、黙読の効果的方法
- (2) 速読の効果的方法
- (3) 楽読の効果的方法

B 資料を読み解く力をつける研究

- (1) 教科書資料の読み方の手順
- (2) 資料の比較検討のさせ方

C 文章で説明する力をつける研究

- (1) 根拠のある説明ができる方法
- (2) 筋道を明らかにする説明ができる方法

D 基礎・基本的知識や技能を身につける研究

- (1) テンポやリズム、スピード感のある知識・技能の獲得方法

授業のツボ！提案プロジェクトの今後のスケジュール

*年間を通じて、宗像市教育委員会の重点課題として取り上げ展開していく。

○人的支援

(1) 学力向上支援教員(24名)、小中一貫教育支援教員の配置(5名)

小中一貫教育推進や少人数指導、TT指導等の指導形態の充実及び特別支援教育推進のために宗像市が雇用した非常勤講師をトータルで29名配置する。

*各支援教員が本当にきめ細やかな指導を行い、個の指導の充実につながっているのか学力向上等に本当につながっているのか検証の必要あり！

(2) ICT支援員の配置(7名)

教育用コンピュータ等の運営管理、ICT利活用支援など学校情報教育の充実と教職員校務事務支援を図るためにICT支援員を各中学校校区に配置する。

(3) ALTの配置(8名)

児童・生徒の英語力の向上を図り、国際化の時代に対応できる人材を育てるために小中学校に外国語指導員(ALT)とALTマネージャーを配置する。

*小学校→本来学級担任か外国語担当者が行うべき外国語活動を充実させるためにネイティブスピーカーを活用する！という本来の趣旨が守られているか検証の必要あり！

(4) 特別支援教育支援員の配置(30名)

特別支援学級や通常特別支援教育をより充実させていくための支援員を配置する。

(5) 学校情報化事業

- ア 電子黒板、デジタル教科書等の配置と活用研究
- イ 学習支援ソフト・校務支援ソフトの導入

(6) 学校支援ボランティア

児童生徒の個性・学力の伸長及び活力ある学級づくりの推進を図るために、学校支援ボランティアに対して特別旅費を支給する。

○宗像市・福津市教育委員会と福岡教育大学との連携による共同研究プロジェクト

ア 新学習指導要領に対応した理科の教材開発と地域教材・人材の活用

理科を専門としていない小学校教員を主な対象として、新学習指導要領（理科）に対応した教材開発とその実践研究を行う。特に、宗像地区に特化した研究として、理科における地域人材や地域教材の活用法に関する研究も行う。

イ ICT教育の実践研究

電子黒板を中心とした教育電子機器の効果的な活用による授業改善や、校務運営ソフトの活用等による学校内の業務改善につながる方途を探る。

ウ 特別支援教育の実践研究

学校現場の実態と課題を把握するとともに講演会を開催する。これらを宗像地区への研究拠点校の設置や研究の在り方など、中長期的な研究プロジェクトの立ち上げにつなげていく。

○学力向上につながるイベントの展開

(1) 調べる学習コンクール

社会科、理科、国語等、学校図書を活用して興味・関心のある内容について調べ、まとめる力の育成を図る。

(2) スピーチコンテスト

小中一貫教育中期部において、言語活動を促進するために国語と外国語にかかるスピーチコンテストを実施する。